

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		放課後等デイサービスこどもラボ東雪谷		公表日 令和7年1月23日			
		チェック項目		はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
		環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	7		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	7	0	・児童指導員等加配体制をとっている。 ・基準人員プラス1~2名の職員を配置している。	・加配が必要な日が多い日はそちらにつきスタッフが必然的に多くなるため、一人ひとりと向き合うことが難しくなりがちな点を改善したい。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	7	0	・玄関、ロッカー、トイレ、手洗い場の動線を分かりやすくしている。 ・1日の流れを見通しを持って行動できるようにボードの設置をし、視覚的情報を取り入れている。 ・入口の階段には手摺がついており、転倒防止となっている。 ・情報伝達ツールとして絵カードやマカトンサインなどが用いられ、またホワイトボードにおいてスケジュールが視覚確認ができる。		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	7	0	・滑らないように床を毎日水拭きしている。 ・こどもたちの帰宅後、毎日掃除や整理整頓を行っている。 ・毎日の掃除や換気とともに、より過ごしやすくなるよう日々のこどもの様子をみて整えるよう努めている。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	7	0	・宿題に取り組む場所として個別の部屋を開放している。 ・宿題や着替えなどをやる際に使用可としている。 ・にぎやかな雰囲気や苦手なお子さんには、タイムアウトできる、学習できる部屋を用意している。 ・小部屋を着替えなどプライバシーを守る必要がある時や宿題に集中したい時、一人で落ち着きたい時に使うことができる。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	7	0	・職員それぞれが気づいたことをその場で共有している。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7	0	・毎年12月に実施し、1月にホームページ上で公表している。 ・評価アンケートの実施、回収後、職員間で共有している。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7	0	・職員それぞれが気づいたことをその場で共有している。 ・こどもたちの様子については日々意見を聞き合い、よりよい療育について意見を伺うことができる。	・こどもの様子など情報共有を行える機会が増えると良いと思う。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	0	7	・第三者評価を行っていない。		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	7	0	・年間計画で設定した研修だけではなく、職員それぞれが興味のある研修を受ける機会を設けている。 ・年間の研修受講表に沿って各自研修を受けている。		
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	7	0	・ホームページ上で公表しているほか、研修により職員にも周知している。 ・ホームページにて公開している。		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	7	0	・個別支援計画に基づいて支援を行っている。		
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	7	0	・良かったこと、留意点などをその場で共有し、共通の理解のもとで支援を行っている。		
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	7	0	・いつでも個別支援計画を確認できるようにしている。 ・記録されているものを共有している。		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	7	0	・導入して良い効果が得られたこと、またうまくいかなかったことなどをその都度、職員間で共有している。		

適切な支援の提供	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	7	0	・ガイドラインに沿って計画内容を設定している。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	7	0	・職員それぞれの発案を支援に反映することができる体制を整えている。 ・より良い活動、面白そうな活動があれば提案し、一緒に考えることができる。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	7	0	・同じプログラムでも年齢や成長に合わせてアレンジしている。 ・それぞれのこどもの発達特性や興味などを踏まえてプログラムの内容を工夫している。 ・毎年行っているイベントも内容を変更している。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	7	0	・プログラムなど集団活動においては、一人ひとりのできる範囲を考慮しながら楽しめるように工夫している。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	7	0	・曜日ごとに通所する児童の個性を見極めながら支援の内容を設定している。 ・必ずではないが、気になったことや共有したい(すべき)内容は都度共有している。	・もっと職員間でコミュニケーションを図り、日々の支援にあたっていきたいと思う。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5	2	・その場で気づきを共有している。 ・小さなことでも、気づいたタイミングで共有し合っている。	・こどもの様子、プログラムの内容について振り返り、共有することを改めて大切にしていきたい。 ・終了後に時間がとりにくい時は、日中(こどもたちが来所前)に共有している。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	7	0	・活動記録、業務日誌に記載している。 ・業務日誌や個々の記録表に記入を行っている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	7	0	・6か月に一回、更新している。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	7	0	・それぞれの個性や成長を見極めながら、色々なことを経験していけるように支援している。	
関係機関や保護者との連携	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	7	0	・やりたいという発信のみならず、やりたくないという気持ちをしっかり受け止めながら活動への参加方法を一緒に考える。 ・こどもの発信を大切にしているところが良いところだと思う。 ・同じプログラムの中でも複数の種類を用意するなどし、選択できる機会を多く作れている。	
	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	7	0	・管理者兼児童発達支援管理責任者が大田区児童発達支援地域ネットワーク会議に参加している。	
	27	地域の保健、医療(主治医や協力医療機関等)、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	7	0	・近隣のクリニックと提携を結び、通所児童の紹介も受けている。 ・すべての機関とは難しいが一部機関とはできている。	
	28	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っているか。	5	2	・保護者からも、学校の年間行事予定表をいただいている。 ・送迎がないため、保護者から情報を共有していただいている。	・送迎サービスを利用している児童の送迎時のトラブル(電車遅延など送迎者の遅れや予約ミス)には対応しているが、日常的な連携には課題を残す。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	4	3		・児童発達センターわかばの家、大田区立障がい者総合サポートセンターとは連絡を取り合っているが、その他の連携には課題を残す。 ・なかなか難しいが、共有すべき児童がいた場合は、今後していけると良いと思う。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	5	2	・保護者に実績記録等を提供しているため、保護者からの提案は可能と思う。	・高校三年生まで在籍するケースがほとんどない。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	7	0	・受け入れケースごとに連携しているほか、児童発達センター主催の研修にも参加している。 ・社員の方が受けたものを、個別に伝授していただいています。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	4	3	・公園遊びの時、そこにいるこども同士が自然と一緒に活動している。 ・交流は少ないが、地域の行事、イベントなどには見に行ったりしている。	
	33	(自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか。	5	2	・自身ではないが、管理者が様々な会議に参加している。 ・地域の障害児関連の会議に参加している。	・複合課題研修等への参加は検討しているが、積極的な関わりには課題を残す。

	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。	7	0	・送迎時にその日の活動の様子を伝えたり、家庭や学校での様子を聞いたりしながらコミュニケーションを深めている。 ・送迎時やメール等で様子を伝えている。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	2	5	・施設入口に東京都や大田区の各種研修・相談の案内を掲示している。	・コロナ禍後からは個別対応となっている。
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	7	0	・見学時に説明するほか、契約時にはさらに時間をとって丁寧に説明している。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	7	0	・保護者に対しては中間評価、総合評価の時にや送迎時に、またこどもに対しては日々の療育の中で意向を確認している。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	7	0	・計画の更新毎に同意を得ている。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7	0	・保育士としての経験、また親としての経験を背景に、寄り添いながら助言を行っている。 ・メール、電話、対面等にて行っている。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機軸を設ける等の支援をしているか。	1	6		・コロナウイルス感染症の拡大以降は開催していないので、状況を見極めながら再開していきたい。 ・以前は行われていたが、コロナ禍で中止になったと聞いている。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	7	0	・苦情解決マニュアルに基づき対応する体制を整えている。また、苦情に関する措置について誰でも閲覧できるようにしている。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	7	0	・毎月のスケジュールを保護者に配信しているほか、ブログの更新頻度を高め活動の様子が分かるようにしている。 ・ブログやインスタグラムなどで日々の様子を投稿している。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	7	0	・児童別の書類を鍵付きの書庫に保管しているほか、ブログの写真についてはモザイク使用の承諾を得ている児童のみを掲載している。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	7	0	・発語のない児童にはマカトンサインや手話、ジェスチャー、二者択一など様々な方法でコミュニケーションをとっている。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	1	6	・元通所児童、通所児童の友達など、誰でも安心して立ち寄れる場所になるように留意している。	・以前は開催されていたが、コロナ禍で中止になったと聞いている。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	7	0	・研修を通して周知確認するとともに、避難訓練については年二回、所轄消防署に計画を提出してそれぞれ一週間に期間で実施している。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	7	0	・自然災害BCP、感染症BCPともに研修で周知確認を行っている。 ・研修や避難訓練を定期的に行っている。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	7	0	・契約時に持病、服薬、アレルギーについて必ず確認を行っている。 ・契約時にこどもの状況を保護者から教えていただいている。 ・入所が決まった際、この情報は必ず共有されている。	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	7	0	・必要があるケースでは保護者と連携しながら対応している。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	7	0	・研修で周知確認を行っている。	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	7	0	・夏季のミニプールの消毒、暑さ指数に基づく熱中症対策について事前に保護者に周知している。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	7	0	・職員全員で回覧し共有している。 ・後日に活かされるよう、ヒヤリハットの重要性を感じている。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	7	0	・毎年、東京都主催の虐待防止・権利擁護研修に参加、職員全員に伝達研修を行っている。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	7	0	身体拘束等の適正化に関する指針を整備しているほか、他害がある児童等については合理的な配慮に基づく個別での対応を行っている。		